

〈受賞者の声〉

令和4年度 功績賞

EICA 前会長 清水 芳久
京都大学大学院 工学研究科 教授

「功績賞受賞」と言われ、まず頭に浮かんだのは「こんな日が来るなんて」ということです。EICAの事務局長、副会長を経て、ちょうど10年前に会長に就任しました。この10年間、EICAの活動にご尽力を賜りました多くの先輩に功績賞を贈呈させていただきました。ずっとお渡しする立場にいたものですから、自分が受賞する側になるとは簡単に想像し受け入れることができませんでした。

世紀を跨いでEICAに積極的に関わらせていただいた十数年の間には色々なことがありました。「突然の事務局長への就任依頼」から始まって、「事務局の草津、その後の大津への移転」、「収支が赤字になりそうな危機」、「学会活性化と会員増強活動」、「未来プロジェクトの開始」等々、多くのものごとが思い出されます。その度ごとに本当に多くの会員の皆さんに様々な方法で助けて頂きました。EICAが世紀を超えて続けているのは、皆さんのご尽力の賜物だと思っております。本当にありがとうございました。これからもよろしくお願ひします。

今は時の流れを寛容に受け入れ、功績賞を笑顔で頂戴しようと思っております。EICAの今後のご発展を、これまでとは少し違ったところから、見守らせて頂きます。

今は時の流れを寛容に受け入れ、功績賞を笑顔で頂戴しようと思っております。EICAの今後のご発展を、これまでとは少し違ったところから、見守らせて頂きます。



EICA 前副会長 小 浜 一 好
月島機械(株)

この度は功績賞をいただき、大変光栄に存じます。有難うございました。

EICA副会長を務めて10年余り、長いだけで大した貢献はできませんでしたが、EICAの雰囲気になじめ、その諸活動に楽しく取り組めたことは幸せだったと思っています。今は岡本副会長に無事バトンタッチすることができ、ホッとしております。

中里元副会長の後を引き継ぐ形で官の側（横浜市環境創造局）からの副会長という立ち位置でしたが、在任中に市の定年を迎え、その後、市の外郭団体そして月島機械と所属は変わっても副会長として活動できたのは、ひとえに清水会長はじめEICAの皆様のご理解とお力添えがあったからこそと厚く御礼を申し上げます。

もともとEICAとは長いお付き合いがあり、初代の平岡会長時代から横浜で研究発表会がある際にはお手伝いさせていただきました。役所では数少ない電気の技術者にとって、EICAの学会誌や研発における最新研究や新たな技術開発、災害調査報告などに触れることは現場のユーザー目線から大変有意義で刺激的でした。また、立場が違う大学や企業の方々とフランクに情報交換する機会としても貴重ですし、未来プロジェクトなど若手の人材輩出の場としても大変期待しています。何よりもEICAの小規模学会らしいアットホームな雰囲気が素晴らしいと思います。今後も一会員としてEICAに参加させていただきますので、引き続き、よろしくお願ひいたします。

最後に会員皆様のご健勝とEICAのますますの発展を祈念いたします。有難うございました。

(なお、お祝い品は日課の早朝散歩+ラジオ体操用の「ウォーキングシューズ」をいただきました。深謝)



EICA 前副会長 前 東芝インフラシステムズ(株) 仲 田 雅 司 郎
 現(株)キュービックス エス コンサルティング

まずは、功労賞を授与して頂き、ありがとうございます。このような賞を頂けるとは、考えてもありませんでしたので、非常に光栄に思っております。

本学会には、約30年前だと思いますが、当時の上司の強引な勧誘?により入会しました。当初は総会、研究発表会などのイベントに参加するだけでしたが、その後、合同委員会の一員として活動することになり、現在を迎えています。皆さんもご存じだと思いますが、本学会では、産官学の連携、コミュニケーションを非常に大切にしており、風通しが良く、所属、年齢などに関係なく、何でも話し合える場になっています。このような環境が自分に合っていたのか、愛着を持って楽しく継続的に参加させて頂きました。

さて、2年以上に亘って、コロナ禍の影響で直接お会いすることがなかなかでき



なくなっており、皆さんの生活様式、価値観も変わってきていることと思います。私の場合は、タバコは夢の中でたまに吸う程度となり、会社帰りの飲食が週末の家飲に変わり、休日には散歩をするようになりました。散歩をはじめてみて、公園の賑わいや近所の様子(変化)など、見ているようで見ていなかった身近なちょっとした変化に気づけるようになったと思います。皆さんにもいろいろな気づきがあったことと思います。

まだ感染者数は高止まりの状況ですが、重症者数は減ってきており、基本的な感染対策をしっかりとした上ではありますが、行動制約の緩和が行われるようになってきています。学会活動もそろそろ新たな活動ができるようになっていくと思います。私も今回をもって引退するわけではありませんので、引き続き、楽しく進めていきたいと思っています。記念品として頂いた自由・柔軟に変形できる錫製のかご同様、固定概念にとらわれずに、コロナを経験したからこそ感じた新たな気付きも皆さんと共に生かしつつ、本学会の更なる活性化を図っていきましょう。ぜひともよろしく願いいたします。



元 EICA 編集委員長 現 EICA 編集アドバイザー 井 手 慎 司
 滋賀県立大学 環境科学部 教授

この度は「功績賞」をいただき、ありがとうございます。編集委員長を通算7年にわたり務めたことが評価されたものと推察します。ただ、委員長と言っても、私は東ぬ役を果たしたにすぎず、もし学会に対してなんらかの功績があったとするならば、それはひとえに、故倉田先生をはじめとする編集委員の皆さまのお力添えがあったおかげです。この場を借りて改めて、一緒に編集委員会を盛り立てていただいた当時の委員の皆さまに感謝申し上げます。

編集委員長を務めて、ひとつだけ悔いがあるとするなら、それは、私の前の委員長だった岩堀恵祐先生の「会議はできるだけ短めに。あとは地元の美味しいお酒と肴を賞味しながら議論を」といった編集委員会の運営スタイルを私の代で途切れさ



せてしまったことでしょうか。ワイワイと和やかな雰囲気委員会だっただけに残念です。私が委員長になった年から、学会誌が季刊発行となり、スケジュール管理や特集の打ち合わせ等でも長時間を要するようになってしまったからですが、もし私が(岩堀先生ほどでなくてもその何分の一かの)酒豪であれば、いまでもそのスタイルの委員会が続いていたのかもしれない(笑)

私も今年度いっぱい定年となります。来年度以降は、写真のように家庭菜園の畑にいる時間が増えるのでしょうか。いずれにせよ、引き続き、学会の活動を応援していきたいと思っています。学会のますますの発展を祈念しております。

